

技術士 第二次試験で求められているもの

(社) 日本原子力学会
原子力教育・研究特別専門委員会
主査 工藤和彦 (九州大学)

平成 21 年度の「原子力・放射線部門」技術士試験では第二次試験に 34 名が合格された。心からお祝い申し上げ、今後のご活躍をお祈りしたい。これで合格者数は合計 343 名になったが、今後の受験の参考のために第二次試験で求められていると考えたことを述べる。

【筆記試験について】

選択科目においては受験者の専門知識と応用能力が評価される。専門知識は、受験者の専門とする事項のみならず、「選択科目」の対象とする技術分野全般にわたる専門的な知識が評価されるので、受験者は幅広い視野で述べることが重要である。また応用能力に関しては、受験者がこれまでに習得した知識や経験等に基づき、対処すべき課題に対して正しく問題を認識し、分析を行い判断し、対応策の企画立案等を適切に実施できる能力が評価されることに留意して記述することが必要である。

必須科目においては技術部門全般にわたる論理的考察力と課題解決能力が評価される。論理的考察力は、対象とした課題の問題点抽出から課題解決までのプロセスにおいて、検討に必要な要素の過不足、論理の矛盾や飛躍がなく、筋道を立て明解な論拠を持って判断し、考察する能力が評価される。また課題解決能力は、新たに直面した、又は直面する可能性のある課題等に対し、多様な視点から検討し、論理的かつ合理的に適切な対応を行える能力を評価される。

従って、受験者は、単に受験者の得意な分野に関する知識のみならず、これまで蓄積した知識・経験に基づき、部門全般にわたる課題に対する判断・分析、状況に応じた実現可能な方策や考え方及び意見を明確に述べることが期待されている。このことを考慮して、専門的な知識であれ、全般的な課題であれ、それらを整理して記述

し、それぞれのポイントについて適切な見解を持って解答にまとめることが重要である。

【口頭試験について】

提出した技術的体験論文を基に、受験者が、技術士としてふさわしい高度な専門知識と応用能力をもち、かつ専門家として高い職業倫理観を備えているかが評価される。従って、提出する技術的体験論文においては、受験者が「主体的に」行ったこれまでの業務、役割、成果等に関して、記述することが重要である。口頭試験においては、それらの明瞭な説明及び課題に対する受験者の見解が求められる。

必須科目及び選択科目に関しては技術士として必要な専門知識及び見識が評価される。

さらに、技術士としての適格性及び一般的知識が評価される。特に技術者倫理に関する認識が問われることから、日頃から社会に起きる問題を技術者倫理の観点から考察することが望まれる。

また、技術士法および制度について十分な知識をもち、理解しておくことが必要である。